木炭紙

もくたんし

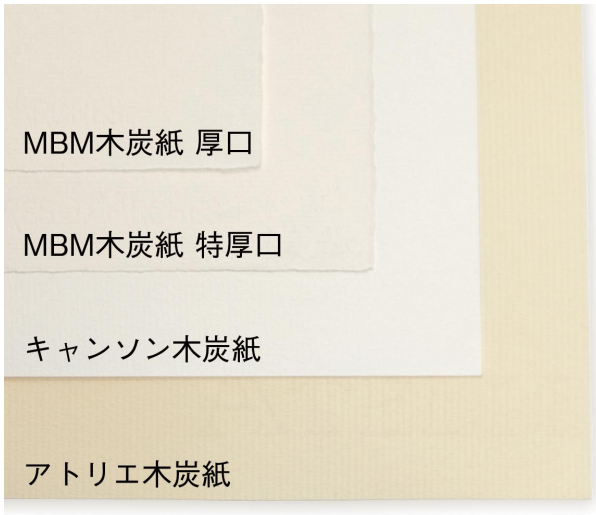

写真 1.　木炭紙各種（拡大写真）

※写真中の紙色は、実際とは異なる場合があります。

概要

木炭紙は、主に木炭などの定着性の弱い描画材に適した紙で、紙の表面には規則的に並んだ筋状の凹凸加工が施され、色材（木炭の粉など）の定着を良くするとともに、描き方の工夫で豊かな表現が可能です。

描画の際に生み出される繊細な調子や濃淡などは、木炭紙特有の柔らかな風合と紙肌によるもので、基本的には紙を傷めないように描き進めるのが大切です。筆圧を抑えるクッションとして、必ず４～５枚程度の木炭紙を下に敷きましょう。塗り重ねる際は、一度塗った木炭を布や指の腹などで軽く押さえ馴らしてから（紙肌の凹部に入れ込むイメージ）、再度塗ることで濃度を上げていきます。また、描画した線などを消すときには、練りゴムや指で強く擦りすぎると表面の凹凸が潰れてしまうため、食パンや柔らかい布を使用しましょう。

市販されている木炭紙には数種類あります。もっとも多く利用されている「MBM 木炭紙」は、フランスのキャンソン社が製造している「ＭＢＭスリースター」という日本向けの独自商品で、その名のとおり“☆☆☆”のウォーターマーク（透かし）が入った最高級木炭紙です。コットン（75％）とセルロースを原料とした保存性の高い中性紙で、種類としては、一般的に木炭紙サイズと呼ばれる 500mm × 650mm で、厚さ（1 平方メートルあたりの紙一枚の重量）は 105g と 130g の 2 種類のものと、その倍の大きさがある 650mm × 1000mm（130g のみ）のものがあります。

「キャンソン木炭紙」は、同様にキャンソン社による紙で、コットン（60％）とセルロースを原料とした中性紙です。紙色は着色により純白に近い色で作られています。（元々は同社の「Ingres Vidalon」というカラーペーパーで、12 色中の白色のもの）サイズは 500mm × 650mm で、100g と 125g の 2 種類の厚さがあります。ちなみに、キャンソン社製木炭紙は、他にも廉価版の「Ingres Ecoles」など数種類あります。

「アトリエ」は、日本の製紙メーカーであるミューズが製造している国産の木炭紙です。ウッドパルプ（100％）を原料とした中性紙で、紙色は薄いクリーム色をしていて、サイズ・厚さは、500mm × 650mm（107g）の 1 種

Copyright © 2007,2008 Musashino Art University. All Rights Reserved.

類です。
使用上の注意として、描く前に紙の裏表を確認しましょう。紙肌の凹凸がハッキリしている面が表側ですが、ウォーターマークの文字の向きでも確認できます。（「MBM」や「ATELIER」が正しく読める向きが表側です。）また、描画後は色材が取れやすいのでフィクサチーフでしっかり定着させましょう。
木炭紙は、画材店などで購入できます。

写真 2.　MBM 木炭紙 厚口における描画例（拡大写真）

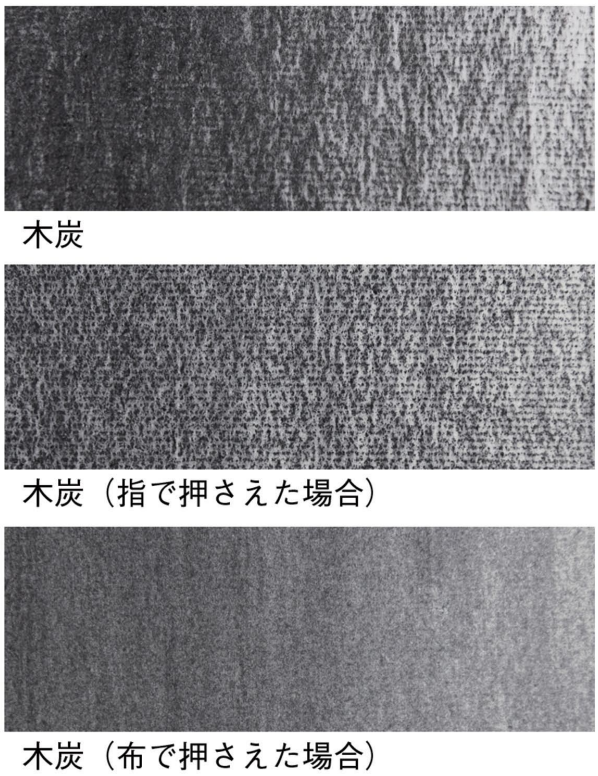

写真 3.　木炭による描画例 [MBM 木炭紙 厚口]（拡大写真）

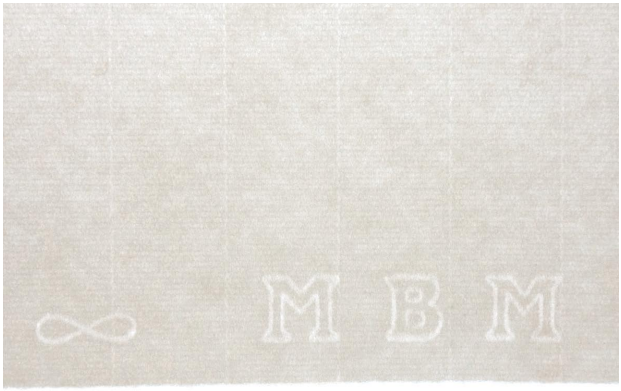

写真 4.　ウォーターマーク（拡大写真）

※描画例（写真）は、用紙の特性や表現の可能性を示すためのテストサンプルであり、特定の描画材の使用を薦めているものではありません。（一般的には適していないとされる描画材もあえて使用しています。）

Copyright © 2007, 2008 Musashino Art University. All Rights Reserved.